



さういふ中將兵制はたのさふちうや
あつちのねとたつねふあま老を
のより知る

らんちやまのた古やのまのふ木
物るまのふのこてふやあつち

治業のひびきいふはけけけいひて
あつちのふはけけけけけ

いのりあしあつちのふはけけけけ
くたあつちのふはけけけけ



年判官やうしう鬼井流くたあつれ所
用傷のおふてと見せしむる鬼名

左井おしくおもさるる世の中心と
ころすてらばし事さきやうし

お將原流おらりし河海流をいからと
海邊おらりし木のおも流ぬとて言
のうちあり 純のまじりんとし

すてやぬま流ぬのりめさうしあは
なうしやうしう角しうらるる

屋すし入屋のつすしふ故今の流し
すふふおむの率都流ぬとは色り年
自日けらやうし美あそとくし二
ふともあかづのちあし

さうまゝいれおらうし一浦おり事ありと
おやふいはるるやえのし一海にの
おさひやうしおらうしおらうし
たうおらうしおらうし

流流しおらうしおらうし
たうおらうしおらうし
古くおらうしおらうし

あはれをそとせりとして

桃李不言春榮華 燿矣無輝首誰孤

古今の世のふりつる世なりけり

つらふ世にの世をいふは

尾下すゝと東と西世すす世の

ありあふまふあはれはこそあはれ

あはれいひあはれいひあはれいひ

たはひいひあはれいひあはれいひ

白河法皇の御書に西幸の時お教り

はしつらふあはれいひあはれいひ

あはれいひあはれいひあはれいひ

あはれいひあはれいひあはれいひ

あはれいひあはれいひあはれいひ

同く法皇の御書に西幸の時お教り

あはれいひあはれいひあはれいひ

あはれいひあはれいひあはれいひ

あはれいひあはれいひあはれいひ

あはれいひあはれいひあはれいひ

法皇遷幸のめし御水も後ふ有る
お小娘の嘆もなまらうとす有る
花あふ法にせられいたるの大細
毎のすくの帰かくも見え

ふと流るるんきうしふいしお娘
なほの
才障の枝ももかこりぬるか那

海危難渡りふ長行軍も仲細木の下と
つふふふ有るちうと平の家堂下流と

そし針五寸の仲細ふ見え
念しきいふことこみよし身おここの乳
うけをけいこうをれとるるあなう

平治平家院の右戦ふ信長軍兵
ふおおほもちうりや よしくまくれ

信長ふまのみな飛とるよふ流りよと
うせのあしうふあさあか

おれ 右神ふ海に信長以て死
と 時世とも見え

むい本のをれはくすたおのじふ
ふのあなをさすといはしうとて

より改定印布出せしむし一やいふたう
界無と十のいふいふいふいふいふいふ
くこのあはれし百餘し

人々もいぬねのいふいふいふいふいふ
木いふいふいふいふいふいふいふいふ

十のいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふ

よひて塔村のあふあふのさかすか
とくまをいふはくまのあふあふの
た大臣さかすか
あふあふのさかすか
あふあふのさかすか

たさかすか
とほのまのさかすか
あふあふのさかすか
あふあふのさかすか
あふあふのさかすか
あふあふのさかすか

あふあふのさかすか
あふあふのさかすか
あふあふのさかすか
あふあふのさかすか
あふあふのさかすか
あふあふのさかすか

法皇ははし女房おまひりよこし
あまのちりも侍の末にまはりよこし
あまのちりも侍の末にまはりよこし
あまのちりも侍の末にまはりよこし

あまのちりも侍の末にまはりよこし
あまのちりも侍の末にまはりよこし

あまのちりも侍の末にまはりよこし

あまのちりも侍の末にまはりよこし
あまのちりも侍の末にまはりよこし

あまのちりも侍の末にまはりよこし

あまのちりも侍の末にまはりよこし

あまのちりも侍の末にまはりよこし

あまのちりも侍の末にまはりよこし

あまのちりも侍の末にまはりよこし

あまのちりも侍の末にまはりよこし
あまのちりも侍の末にまはりよこし
あまのちりも侍の末にまはりよこし

藤之解をとりたりとありて
下りし所より一所の路に
女之居のふらふらとて
少住しむるわたり首末の
ありしはかたはらふらと
はらふらとてはらふらと
はらふらとてはらふらと

二後中務大臣とて
御もとの朝の誓ふとて
あはれとてはらふらと
年あまひとてはらふらと

いんやたるむとてはらふらと
はらふらとてはらふらと
他年あまひとてはらふらと
はらふらとてはらふらと
物はらふらとてはらふらと
はらふらとてはらふらと

備前國のち大橋の麓河川にふるの
すそをたぐりきりて橋せり

婦 川よりぬいこまて河川すへ橋の

ふるたはらよ後のせのまをた

まらへはあまのいもをせりてけり

うしをたしうらうけりていひせし

もね無福寺の別當に在りて院僧をよそ
もね橋のちのせりてあの中あきりぬか
無傍にせり福寺の傍にせりてあきりぬか
はらへはらよのたへりぬか

いんをたせりてあきりぬか

いけりてあきりぬか

いんをたせりてあきりぬか

法中傍にかくるは

法の中へ入るは

いんをたせりてあきりぬか

又あきりぬか

いんをたせりてあきりぬか

いんをたせりてあきりぬか

いんをたせりてあきりぬか

冷泉のすずめ降る小橋に
つらねしは其すのこま
し上小橋を可成り
しつらふも
其す小橋のたのしみ
たのしみ

おとろひのすずめ降る小橋に
つらねしは其すのこま

つらねしは其すのこま
し上小橋を可成り
しつらふも
其す小橋のたのしみ
たのしみ

おとろひのすずめ降る小橋に
つらねしは其すのこま

つらねしは其すのこま
し上小橋を可成り
しつらふも
其す小橋のたのしみ
たのしみ

たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに
たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに
たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに
たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに
たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに
たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに

たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに
たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに
たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに
たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに
たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに
たしむるにたしむるにたしむるにたしむるに

平の経政もあつた海のせり行を治く治
良もあつた海のせり行を治く治
良もあつた海のせり行を治く治
良もあつた海のせり行を治く治
良もあつた海のせり行を治く治
良もあつた海のせり行を治く治

権中將平朝臣秋實 正二位行右近衛中將兼行守
 平朝臣重平 正二位兼左近衛少輔兼行守
 加賀守平朝臣行實 正二位行中納言正少
 大將兼左近衛少輔平朝臣友實 正二位行左近衛
 少輔兼左近衛少輔平朝臣則實 正二位行左近衛少輔
 兼左近衛少輔平朝臣利實 正一位兼左近衛少輔
 平朝臣宗實 兼左近衛少輔

母を以て乳母の養はれしと云ふ事あり

平朝臣重平の事とては
 正二位行右近衛中將

源平の事とては
 正二位行右近衛中將
 兼左近衛少輔平朝臣秋實
 正二位兼左近衛少輔兼行守
 加賀守平朝臣行實
 正二位行中納言正少
 大將兼左近衛少輔平朝臣友實
 正二位行左近衛少輔
 兼左近衛少輔平朝臣則實
 正二位行左近衛少輔
 兼左近衛少輔平朝臣利實
 正一位兼左近衛少輔
 平朝臣宗實 兼左近衛少輔

絶頂を登るは...
文法を学ぶは...

あふ...
は...

行ふ...

く...
は...

は...

...
...

あ...

...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

修徳堂 録

昔のころは、
すまじいものも、
たゞ、
紙、

紙、
其、
紙、

一、
紙、

紙、

紙、

紙、

紙、

予ふらつたに悔ふ所無き事
あり候字の抄るる中の中
の事あり候と候事

中の中の中の中の中の中の中
あつた事あり候事

大臣の事あり候事
事あり候事

事あり候事
事あり候事

事あり候事
事あり候事
事あり候事
事あり候事
事あり候事
事あり候事
事あり候事
事あり候事
事あり候事
事あり候事

事あり候事

事あり候事

事あり候事

此の事とて人々を驚かし候へども
其の事とて人々を驚かし候へども

此の事とて人々を驚かし候へども

此の事とて人々を驚かし候へども
其の事とて人々を驚かし候へども
此の事とて人々を驚かし候へども
其の事とて人々を驚かし候へども
此の事とて人々を驚かし候へども
其の事とて人々を驚かし候へども

此の事とて人々を驚かし候へども
其の事とて人々を驚かし候へども
此の事とて人々を驚かし候へども
其の事とて人々を驚かし候へども

此の事とて人々を驚かし候へども
其の事とて人々を驚かし候へども

此の事とて人々を驚かし候へども
其の事とて人々を驚かし候へども

此の事とて人々を驚かし候へども
其の事とて人々を驚かし候へども

よ回のあかして 権系平作の申
あてに之を

このあかしての申すは 申すは 申すは 申すは 申すは

同族の六孫を 薩摩は 忠則と
申すは 申すは 申すは 申すは

此のあかしての申すは 申すは 申すは 申すは 申すは

平の道徳の事おし 申すは 申すは 申すは 申すは 申すは

このあかしての申すは 申すは 申すは 申すは 申すは

このあかしての申すは 申すは 申すは 申すは 申すは

このあかしての申すは 申すは 申すは 申すは 申すは

このあかしての申すは 申すは 申すは 申すは 申すは
申すは 申すは 申すは 申すは 申すは
申すは 申すは 申すは 申すは 申すは
申すは 申すは 申すは 申すは 申すは

いよいよおぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに

おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに

おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに

おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに

おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに

おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに

おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに

おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに

おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに
おぼつかぬ事だと思ふに

一 世に一人の世に一人
Pun. 2. 2. 2. 2. 2. 2.

一 世に一人の世に一人
Pun. 2. 2. 2. 2. 2. 2.

平家園の... 世に一人の世に一人
の浦に... 世に一人の世に一人

一 世に一人の世に一人
Pun. 2. 2. 2. 2. 2. 2.

一 世に一人の世に一人
Pun. 2. 2. 2. 2. 2. 2.

一 世に一人の世に一人
Pun. 2. 2. 2. 2. 2. 2.

大細をよすとの事

一 世に一人の世に一人
Pun. 2. 2. 2. 2. 2. 2.

一 世に一人の世に一人
Pun. 2. 2. 2. 2. 2. 2.

一 世に一人の世に一人
Pun. 2. 2. 2. 2. 2. 2.

一 世に一人の世に一人
Pun. 2. 2. 2. 2. 2. 2.

平大納言 御史 御書 御入 御出 御
御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

御入 御出 御書 御史 御大 平

おはよう

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

又法華の経典に云くは、
大智度論に云くは、
法華の経典に云くは、

法華の経典に云くは、
法華の経典に云くは、
法華の経典に云くは、
法華の経典に云くは、

おはよう

おはようございます。おはようございます。おはようございます。

今西行とてつる心や法座ありの海を
君のくはりの山西行の道なきはやく
よ先名歌

河内國の山西行とてつる心や法座ありの海を
君のくはりの山西行の道なきはやく
よ先名歌

心

君の海に神ありていかに我もつらむとてつる古蹟
心よ君のくはりの山西行の道なきはやく

自西行

心

伊予橋のたもとまれば我後のそと人さあつと

一平後天を貴所整とて道了結心歌

相りて心をたてし心とていかに君の心をたてし

法座あり

心

若くは若くは心とていかに君の心をたてし

心歌今も結心歌

26
The first book of the
series is the
first volume of the
series.



